

第6回 新宮市文化複合施設基本設計等検討委員会 会議概要

日 時：平成27年10月7日（水） 午後1時30分～午後4時30分

場 所：市役所西別館3階会議室

【出席委員】

堀内委員、関委員、川口委員、丹羽委員、船上委員、山本委員、高委員、榎本委員、
勢古委員、向井委員、片山委員（順不同）

【欠席委員】

上路委員

【事務局】

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、南係長、篠原主事
図書館：道前係長

<会議次第1. 前回打合せ内容の確認>

設計者より、資料1に基づき前回会議の打合せ内容を確認

質疑・意見特になし。

<会議次第2. 平面計画についての検討>

【委員】

前回の委員会の際の質問に対して回答を頂きたい。最終的なホールの客席数や図書館の㎡数、蔵書数等に関しての根拠資料を市民に公開するのか。熊野学センターは誰を対象に何を展示するのか。川が臨める位置にカフェの配置する検討を行ったのか。デジタルを使った映像の展示を行う予定はないのか。熊野学センターへどの様なスタッフ配置を行うのか。

【設計者】

カフェの配置については今日の会議にて議論を行う。

【事務局】

熊野学棟は一般収蔵機能を有しており、研究者に対応できる体制を考えている。展示のイメージとしては文化財や歴史に精通した内容を想定している。熊野学センターのスタッフ配置に関しては今後検討を行う。

【委員】

展示のテーマは基本計画にていくつか挙げており、実物資料を使って展開していくこ

とを想定している。全てを実物では行えないため、レプリカや映像を検討する。展示するものは書籍系だけでなく、歴史民俗資料館等にあるものを使った展示を考えている。

【委員】

展示内容に合わせて必要面積や形態が決まるというのが道理であると考えているが、現時点では具体的な内容や方策、対象者が不明確なため箱モノにならないか懸念している。

設計者より、資料 2－1～2－5 に基づき平面計画について説明

【設計者】

総合事務室の配置に関しては、遅くまで開館していること、利用者に分かりやすい位置にあること、ホールとの連携が取りやすいことを重視し、図書館棟に配置する方が良いと考える。総合事務室の在り方については、同じ部屋にいる方がコミュニケーションが取れ、一緒に企画や運営を行っていくにはメリットがあるのと考える。将来的な変化に柔軟に対応できるようにパーティションで分割できる計画としている。

【委員長】

総合事務室のみで全部の施設を賄うのは困難であるのでサテライトやカウンターを設ける等の方策を講じる必要がある。

【設計者】

熊野学棟に熊野学研究室、図書館棟には整理作業室を配置しており、それらと連携すると共に施設全体の運営や貸出等を行うところとして総合事務室を設けている。

【設計者】

収蔵品を展開する作業スペースが必要であるとの意見を受けて作業スペースを拡大した。「研修室兼企画展示」は企画展示を行う際は室全体を使って展示を行い、研修室として使う際は展示パネルやケースを奥側の収納スペースに収納する計画としている。

【委員】

作業室と収蔵庫は隣接している方が良い。収蔵庫の面積は今後協議を行っていく。

【委員】

研修室はバス 1 台分程度の人数が入れるスペースが欲しい。

【委員】

パフォーマンスやアーティストから表現されたものも熊野の魅力を感じる一つである。そのようなものも映像等を使って発信していけるようにするべきである。

【委員長】

どのようにビジュアル化していき発信していくかは重要な検討課題であり、今後議論を深めていくべきである。

【委員】

熊野古道センターのように映像専門の部屋はないのか。

【設計者】

室としては設けていないが、展示コーナー2の壁面ではガラス側に暗幕を下げる等の対応をして映像を流すことは可能である。

【委員長】

デジタルを駆使した展示は人件費の削減という点においても有効であり、最近の施設では一般的に採用されているものである。

【委員】

市内の子供たちや観光客が訪れてある程度熊野について分かり、分かった上で再び街に出ていくような展示になって欲しいと考えている。

【委員】

収蔵庫は130㎡程度しかなく、不足しているように感じる。面積をもう少し拡張する検討を行って欲しい。また、展示用の備品を収納する倉庫が必要である。

【設計者】

書籍類が多いため、集密書庫を使って収納を行なう工夫を行っている。書籍のみであれば2階の熊野学アーカイブの集密書庫を拡大し、そちらに収蔵することも考えられる。

【事務局】

収蔵する歴史の実物の資料は書籍以外で250点あり、その他に佐藤春夫や西村伊作の絵画、また陶器や洋書などを収蔵したい。今後50年間で100点程の収蔵物を想定し、計1100点の収蔵を見込みたい。郷土資料などの2次資料は熊野学アーカイブの集密書庫に収蔵する計画である。

【委員】

熊野学ひろばを狭くして収蔵庫の面積を増やすのはどうか。

【委員】

身体障害者用の駐車場の動線を教えて欲しい。

【設計者】

身体障害者用の駐車場は、熊野学棟に最もアプローチしやすい場所に配置している。車両動線を東側に計画しているので熊野ひろばに活動には影響ない。

【委員】

市民ボランティアの待機場所はあるのか。

【設計者】

ボランティア同士の繋つながりができるように1つの場所に集約して「市民ラウンジ」として配置した。

【委員】

基本計画の面積と今回計画の面積を比較検討すると、熊野学棟の面積が減り、図書館の面積が広がっている。熊野学アーカイブの閉架書庫を図書館棟に移動させて収蔵庫や常設展示の方に面積を割り当てることはできないのか。

【委員】

絵画を展示するスペースはあるのか。

【設計者】

ギャラリースペースは外光が入る場所と入らない場所の2つに分類できる。外光が入る場所は ホワイエと熊野学ひろばで、外光が入らない場所は小ホール・研修室である。

【委員】

貴重な絵画等を借りてきた場合の保管する場所やセキュリティ対策はしているのか。

【委員長】

収蔵庫で対応できると考える。絵画展を開催する際は、小ホールで行うことが想定される。美術館機能を持たせるのではなく、ある室の中での転用を考えていくべきである。

【設計者】

貴重なものを貸し出す際は、施設の設備等にかかなり高い基準を満たす必要があり、そもそも貸し出してくれるかという問題がある。

【委員】

一度に多くの観光客が熊野学棟に訪れた際にトイレが足りないのでは。図書館棟のトイレを使うなどの連携を考えていかななくてはならない。

【委員】

既存の収蔵庫はどこもいっぱいであり、収蔵庫の確保は急務である。熊野学アーカイブや熊野ひろばの大きさを少し減らしたとしても収蔵庫の面積を確保したい。

【委員長】

熊野学棟の全体面積は変えないままで調整を行うこととする。必ず確保しなくてはいけない室面積とまだ融通がきくところとを明確にして検討を進めていく。

【委員長】

熊野学の研究に基づくものだけでなく、アートとのコラボレーションなど多岐に渡る可能性が考えられるので、次回の検討委員会までに展示の企画を考えてくることとする。

【設計者】

図書館の面積については、書架を6段書架・35冊/段で計画し、熊野川側にゆったりとしたリーディングスペースを確保している程度で適正であると言える。絵本コーナーは安全面に配慮して奥側に配置した。学習室の位置については、最近では開架スペースと別に設けているところもある。図書館内で150席を超える閲覧スペースを確保しているので運用で閲覧用と学習用のすみ分けを行う方法もある。

【委員】

図書館への搬入口及びBM車の連絡口の位置はどこか。閉架書庫には1～2台の作業スペースがあればよい。図書館事務室と整理作業室間での職員の動線が欲しいため、小荷物専用昇降機はエレベーターが望ましい。図書館部分にカフェを配置するのは賛成だが、閲覧席が不足しているように感じる。1階にカフェスペースを設け、2階は簡易的にして

はどうか。自動貸出機の位置がカウンターを過ぎたところにあり、自動貸出機の利用割合を増やすためにも位置を再考して欲しい。

【設計者】

小荷物専用昇降機とエレベーターではコストが大きく違うため十分に検討する必要性がある。カフェは採算が取れないケースが多々見受けられるので、本当にカフェを設置するかどうか慎重に検討していく必要がある。

【委員】

利用者の会議で和室を大きくして欲しいとの意見があった。

【事務局】

ブラウジングコーナーに飲食可能なスペースを設けることに賛成である。ただ、1・2階両方に設置するのは不要であるとする。

【委員】

現図書館の面積は1580㎡で、今回計画している図書館は2300㎡もある。一人あたりの面積・蔵書数が県内でトップになるが、この複合施設のメインは図書館ということか。

【設計者】

図書館棟全体での面積は2300㎡だが、1階は図書館以外の機能が入っているので実質的な図書館スペースは1500㎡程度である。基本計画では5段書架で計画されていたが、現案では6段書架・35冊/段で計画しており、11万冊が納まる程度の面積となっている。純図書館面積として決して広いわけではない。

【委員】

図書館スペースにカフェを配置することに反対である。匂いが館内中に広がることを考えると好き嫌いがある。厨房が2階にあると、ホール棟でレセプションを行った時に運ぶのが大変である。学習室を2階に設置し、和室やボランティアスペースなどを広くする方が良いのでは。新宮は川上不明白の出身地ということもあり、茶室を大切にすべきである。和室を広めに設けておけば、託児や拡大おはなし会に使える等の利点もある。

【委員】

市民から調理室が欲しいとの要望があるが、多目的ギャラリーで可能か。図書館棟とホール棟の間の市民活動ゾーンは明るく楽しい通りにするためには工夫が必要である。

【委員】

2階にキッズルームが必要ではないか。カフェは2階のみに設置し、屋外の熊野ひろばを上手く活用するのはどうか。和室は広げた方が良い。

【委員】

本のすぐ横で勉強するイメージがあるため、学習室は2階が良い。川を見ながら飲食できるスペースは魅力的であるが、カフェの運営を行うところがあるかどうか懸念事項であり、自動販売機での対応はどうかと考える。

【委員】

カフェは無くして自動販売機を設置するのでよいと思う。市民会館の調理室の利用頻度が低いことを考えると木と食のアトリエは必要か。学習室は 2 階に設置した方がよいと考える。託児室は必要である。和室の面積は広くして欲しい。

【委員】

これだけの規模の複合施設であればカフェスペースが 1 つあるべきだと考える。

【委員】

観光型を唱っていることを考えるとカフェを設置すべきである。

【委員長】

事務局は設計者と再度協議を行い、最終案を提示すること。

【委員】

1 階は図書館というより公民館機能が強い。市民で使い方を相談しつつ施設を使っていけるようにしていけばよいのでは。子どもと中高年の人が一緒にいる空間が必要である。

【設計者】

ホールは、1010 席を目標としている。舞台から 22～23m 内に全席が入る計画となっており、舞台と客席の距離が近く臨場感にあふれるホールとなっている。中通路を挟んで舞台側で 300 席、1・2 階席を利用して 700 席、バルコニー席も合わせて 1010 席という様に人数に合わせて分割して使用することができる。コストを縮減するという意味も込めて、小ホールにはあまり機能を持たせずに多目的ホールとし、大ホールは 300 席から使えるようにすることで稼働率を上げる計画としている。

＜会議次第第 3. 市民ワークショップについて＞

【設計者】

第 4 回は文化ホールについての議論を行った。ホールの専門家から客席数についての話があったり、ユーザー側からスタジオは小さいものが 3 つあるよりもある程度の広さを持ったものが 2 つある方が良いという意見があった。施設が使えない 3 年間は屋外空間を有効に使う案やカウントダウンをして行こうという案が出た。

第 5 回ワークショップでは 4 グループに分かれてまち歩きを行った。普段歩くことが少ないので施設とまちのつながりを考えることが大切であるとの意見があった。

＜会議次第第 4. その他＞

【事務局】

次回の基本設計等検討委員会は 11/12（木）に行う。